

## SPODフォーラム2014参加者の皆様へ

このたびは、SPODフォーラム2014にご参加いただき、ありがとうございました。

台風や大雨による災害など、この夏は例年になく出来事が続きましたが、それにもかかわらわず、全国から430名あまりの方々が遠路高知にお越しくださいました。

夏を締めくくるにふさわしく、盛会のうちにフォーラムを終了できましたこと、運営にあたりました高知県スタッフ一同、厚く御礼申し上げます。

本年度は、「“気づき”と“振り返り”が大学を変える～成長を確かなものにするために～」を全体テーマに掲げ、3日間にわたり多彩な講師陣のもと、充実した研修プログラムを展開することができました。

なかでも、中原淳先生を講師にお迎えしたシンポジウムは、学生食堂を会場としてワークショップ形式で実施するという、従来のプログラムとは異なる破天荒なものとなり、多少困惑された方もおられたかもしれません。会場の都合などさまざまな理由もございましたが、なによりも、参加者のみなさまがなにがしかの“気づき”を得られるプログラムにしたいとの思いから、そのような形での実施に至りました。

職種や職位を異にする150名を越える参加者が、熱心にレゴによる振り返りに取り組んでおられる様子や、その後の真摯なディスカッションを拝見しながら、そのような思いはある程度かなえられたのではないかと安堵しております。

リーダーセミナーでは、佐藤浩章先生、大坪檀先生を講師にお招きし、「マネジメント」をキーワードとしたお話を聞くことができました。佐藤先生のアクティブ・ラーニングを導入するためのカリキュラム・マネジメントに関するお話は、現在の大学教育のホットなトピックとして、聴衆の関心の高さをうかがわせました。また、大坪先生の年齢を感じさせないエネルギッシュなお話しは、理論と実践、両面の経験を積まれた先達に対して、若手教職員からあいついで質問が出るなど、継承と変化の大きなうねりを感じさせるものとなりました。

SPODフォーラムは、ワークショップ形式の研修が多く、また、懇親会も毎年盛況で、問題意識を共有する未知の方々との出会いにも大きな魅力があります。今年はどうでしたか？

研修の成果やあらたな出会いを糧として、すでにみなさまには、職場での日常の業務に励んでおられることと思います。SPODフォーラム2014での経験が、これからの大学を、大学教育を変えていくひと粒の種となることを願ってやみません。

最後になりましたが、SPODフォーラム2014の運営を支えてくださった研修講師のみなさまにも厚く御礼申し上げます。

SPODフォーラム2014 事業運営責任者  
塩崎 俊彦（高知大学総合教育センター大学教育創造部門 教授）  
SPODフォーラム2014 スタッフ一同

# フォーラム風景



「経験から学ぶ力を育てる  
－成長を促す振り返りとは？－」



「若手職員に送る『仕事の魅力発見!!!』講座  
－気づきから築くアクションプラン－」



「大学版反転授業：TBLの手法  
－問題を作ってみよう－」



「振り返りを活用した学生・教職員  
のための効果的な能力開発手法」



「インストラクショナル・デザイン(ID/教育設計)  
を活用した職員による企画・マネジメント」



「絶対に達成する技術  
－達成する人の内省とは－」



トップリーダーセミナーⅠ  
『主体的な学び』を促進する  
カリキュラムデザイン」



トップリーダーセミナーⅡ  
「われわれはどのような  
経営視点をもてばよいのか？  
－大学のマネジメントを考える－」



「部下・若手職員の育成」  
－自ら学び成長する－



「国際連携系職員養成プログラム  
(レベルⅡ) 留学生受入実践」



「ルーブリック評価入門」  
－考える、つくる、活用する」



「学びを促進させるための学習支援と  
アカデミック・アドバイジング」



「大人数講義法の基本」



「理工系講義形式授業の中で  
学生を輝かせるひと工夫」



「ツールを使ってコミュニケーション  
－自己理解と他者理解－」



「学生参加型授業入門」



「地域体験を学びに変える  
－“どうしようもない”から気づく力をつける－」



「はじめましょうアクティブラーニング  
－橋本メソッドの事例から－」



シンポジウム

「大学人のためのリフレクション事始  
-人材育成研究・実践のフロンティアから考える-」



ご参加いただき  
ありがとうございました